Title	「テアル」と韓国語との対応：格表示と動作主の存在を中心に
Sub Title	Correspondence relation between Japanese "Tearu" and Korean language
Author	石田, 美智代(Ishida, Michiyo)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2014
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.11, (2014.) ,p.1- 23
JaLC DOI	
Abstract	<p>Korean verb "it-ta" is equivalent to both the Japanese verbs "iru" and "aru". Korean subsidiary verb "o it-ta" is equivalent to the Japanese declinable compound word "te-iru". Accordingly, there is no Korean equivalent to the Japanese declinable compound word "te-aru".</p> <p>The students in middle and higher-level classes learn various expressions including "te-aru", and those are not explained in detail in textbooks. "te-aru" has been analyzed based on its "meaning". It has been also classified based on its verbal meaning, which makes it significantly difficult for the students to understand it.</p> <p>This paper examines "te-aru" in Japanese, which cannot be literally translated into Korean, by means of the novels translated from Japanese to Korean. The analysis is from the perspective of nominative, accusative and agent, so that it can be helpful for the students in learning the Korean grammar as well as the teachers in teaching the language.</p> <p>The results show some tendency; the combination "nominative + te-aru" and "accusative + te-aru" in Japanese (no agent) corresponds to "passive + o it-ta" in Korean. Also "accusative + te-aru" in Japanese (no agent) corresponds to "transitive verb + o tu-ta/not-ta" in Korean. "o tu-ta/not-ta" is equivalent to "te-oku" in Japanese.</p>
Notes	研究論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20140000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「テアル」と韓国語との対応

— 格表示と動作主の存在を中心に —

石 田 美智代

Abstract

Korean verb “it-ta” is equivalent to both the Japanese verbs “iru” and “aru”. Korean subsidiary verb “o it-ta” is equivalent to the Japanese declinable compound word “te-iru”. Accordingly, there is no Korean equivalent to the Japanese declinable compound word “te-aru”.

The students in middle and higher-level classes learn various expressions including “te-aru”, and those are not explained in detail in textbooks.

“te-aru” has been analyzed based on its “meaning”. It has been also classified based on its verbal meaning, which makes it significantly difficult for the students to understand it.

This paper examines “te-aru” in Japanese, which cannot be literally translated into Korean, by means of the novels translated from Japanese to Korean. The analysis is from the perspective of nominative, accusative and agent, so that it can be helpful for the students in learning the Korean grammar as well as the teachers in teaching the language.

The results show some tendency; the combination “nominative + te-aru” and “accusative + te-aru” in Japanese (no agent) corresponds to “passive + o it-ta” in Korean. Also “accusative + te-aru” in Japanese (no agent) corresponds to “transitive verb + o tu-ta/not-ta” in Korean. “o tu-ta/not-ta” is equivalent to “te-oku” in Japanese.

1. はじめに

「本に印が付けてある」のような日本語の「テアル」形を韓国語で表現する場合、そのまま直訳することができない。なぜなら、日本語では、存在を表す場合、有生物には「いる」を、無生物には「ある」を用いるという区別があるが、韓国語では「いる」「ある」両方に「있다」を用いており、補助動詞として使われる「어 있다」は通常「テイル」に対応させているので、韓国語では「テアル」形を直訳することができないということになるからだ。また、後で見る

ように、日本語の「テアル」は一般的に他動詞につき、韓国語の「어 있다」は主に自動詞につくという制約があるので、日本語「テアル」文に使われている他動詞を韓国語では使えない。

一方で、「テイル」は、韓国語学習の初級から中級段階で導入される。日本語では動作の継続と結果状態の区別なく「テイル」が使われるのに対し、韓国語ではふたつを区別して表現する。動作の継続を表す「テイル」は、「動詞語幹+고 있다」、結果状態を表す時は「動詞語幹+어 있다」を使う。日本語の「テアル」は結果状態を表すので、韓国語の「어 있다」と重なる部分があると予想される。

大学等で使用されている韓国語初級学習者対象の教科書や学習書では、「テイル」と対応する「어 있다」は扱うが、「テアル」との対応についての解説はない。日本語「テイル」に相当する韓国語「어 있다」に関しては、野間・金(2004)に次のような説明がある。

Ⅲ있다²

「목이 부어 있다」(のどが腫れている)に用いられる「해 있다」(Ⅲ있다)は、「腫れる」という動作の結果が残って継続していることを示している。この「해 있다」(Ⅲ있다)は日本語では概ね「…している」に訳しうる。この形になりうるのは自動詞だけで、ほとんどの他動詞はこの「해 있다」(Ⅲ있다)形をもたない。(p.139)

ここでは「日本語では概ね「…している」に訳しうる」とあり、「テイル」以外に訳される可能性を否定してはいない。

李(2012)では、「状態の継続、動詞語幹+아/어 있다」という項目で紹介している以下の例文のなかに、「テアル」が混ざっている(p.26)。

거기에 서 있는 사람은 누구입니까? (そこに立っている人は誰ですか?)
할머니가 의자에 앉아 계십니다. (おばあさんが椅子に座っていらっしゃいます。)
창문이 열려 있습니다. (窓が開いています)
언니는 감기로 누워 있습니다. (姉は風邪で横になっています。)
내 이름이 써 있었습니다. (私の名前が書いてありました。)

野間・金(2004)に「この形(어 있다=Ⅲ있다)になりうるのは自動詞だけ」と説明があったように、上記5つの例文に使われている動詞をみると、「서다(立つ)」、「앉다(座る)」、「열리다(開く)」、「눕다(横になる)」は、すべて自動詞である。しかし、最後の「쓰다(書く)」は他動詞で、日本語訳に「テアル」が入っているにもかかわらず、特に説明があるわけではない。

また、中西（2010）の第2課「하숙 구하기（下宿探し）」では、会話文に「그럼, 그럼 청소도 다 깨끗이 해 놓았어 .」というものが入っている。「어 놓다（テオク）」が使われている部分が、日本語訳をみると、「ええ、ええ。掃除も綺麗にしてあるわよ」と「テアル」に訳されている。しかし、文法解説では特に触れられていない。こうした記述は、熱心な学習者には非常に気になるところである。また、授業で具体的な説明をうけることがなければ、「テアル」を含む日本語を韓国語に作文することができないだろう。

本稿では、従来のテキストでは踏み込んでこなかった日本語の「テアル」と韓国語との対応を明らかにし、初級から中級の韓国語学習者に対して日本語「テアル」が韓国語にどのように対応しているかを説明できるようにすることを目的とする。日本の小説に出ている「テアル」部分の韓国語訳を集めて、使われる動詞が、目的語を持つかどうか、対象を標示する助詞が交替するか否か、動作主が明示されるか否かという2点から分析することにより、「テアル」と韓国語訳の表現の対応にある程度の傾向があることを示す。

2. 先行研究

日本語の「テアル」に関する先行研究は数多くあるが、そのうち対象を標示する助詞について分析したものに益岡（1987）がある。益岡（1987）では、「テアル」を、対象が「ガ」で示されるものをA型、動作主が「ヲ」、対象が「ヲ」で示されるものをB型に分類している。さらにA型を、広義の存在表現の一種、つまり存在動詞としての「アル」と等位であるものをA1型、対象が何らかの状態変化を起し、その結果の状態が視覚可能な形で存続しているものをA2型に分け、B型は、「結果の事態の存続」の意味が表されるものをB1型、行為の有効性のみが示されるものをB2型に分類している。

この益岡（1987）に対し、斉藤（2008）は、A型・B型は統語的な分類であるが、その下位分類については、用いられている動詞の表す語彙的意味によるもので、A型の一部とB型の一部が意味的に近いなど、複雑な関係になってしまうと指摘している。そこで、対象の格表示を変えるテアルと変えないテアルという二つの基準で考え、次のように説明している。

- (1-1) 窓ガ開けてある。
- (1-2) 窓ヲ開けてある。

「窓を開ける」という他動詞文に「テアル」を後接させる場合、(1-1)は、対象の格表示を「ガ」に変え、「開けた状態の窓がある」ことを表す表現になる。この場合、動作主を構文上に明示することができない。(1-2)は、対象の格表示はかわらず「ヲ」のままなので、動作主を明示しようとするなら「ガ」で表すことができる。つまり(1-2)は「誰かが窓を開けた」とい

う行為が終わったことを表し、この場合の「テアル」は完了を表す補助動詞として機能していると言える。このように格表示を基準にしてテアル構文を観察するならば、用いられる動詞の意味的な影響を受けずに分析でき、テアル構文の説明が、より簡潔になると提案している。

テアル構文について、日本語と韓国語を対照させたものでは、南得鉉（1999）、（2001）がある。南得鉉（1999）では、対象を「ヲ」で表す「テアル」が、韓国語の「어 놓았다（テオイタ）」に対応すると述べている。韓国語には「置く」という意味をもつ動詞として、主に「놓다」と「두다」の二つがある。これらの動詞を補助動詞に用いた「어 놓다」、「어 두다」はいずれも「テオク」に対応し、その過去形の「テオイタ」が「어 놓았다」「어 두었다」である。南得鉉（1999）では、この二つの形について、「어 놓았다」は、意図性が弱く、単なる「処置」の意味をもち、「어 두었다」は、強い目的意識を持って、意図的にある行動を行った結果状態という意味をもつと分析している。その上で、日韓対訳小説から収集したデータを基にして、対象を「ヲ」で表す「テアル」が、韓国語の「어 놓았다」に訳される傾向があり、「어 두었다」で訳されているものも「어 놓았다」に置き換え可能だとしている。また、日本語の「テオイタ」は、「어 두었다」に訳され、「어 놓았다」が用いられた例はなかった。

続いて、南得鉉（2001）では、対象を「ガ」で表す「テイル」「テアル」「ラレテイル」と韓国語の「어 있다」、「어저 있다」との対応を見ている。このうち対象を「ガ」で表す「テアル」と韓国語の対応に関して、「日本語の「～ガーテアル」形式は韓国語の「～이³-어 있다」形式に訳される例のみで、韓国語の「～이-어저 있다」形式に訳されているものは一例もなかった」（p315）と述べている。しかし、南得鉉（2001）で例に挙げられているものは「쓰다（書く）」の受動形「쓰이다」を使った「쓰여 있었다（書かれていた）」と、「적다（書く）」の受動形「적히다」を使った「적혀 있을 뿐이다（書かれているだけだ）」の2例のみで、しかもいずれも日本語の「書く」の意味をもつ動詞の受動形に限られているという限界がある。

本稿では、日本語の小説の中から「テアル」が韓国語に訳されたもの119例を集め、斉藤（2008）が指摘しているように、動詞の意味による分類ではなく、対象を表す格標識と、動作主の明示に絞って、日本語のテアルが、どのように韓国語に訳されるのかを考察してみようと思う。

3. 韓国語の「어 있다（テイル）」

日本語では、存在を表す「いる」と「ある」は、有生・無生で使い分けているが、韓国語では「있다」が「いる」と「ある」の両方の意味をもつ。

(2-1) 집에 동생이 있다.

家に 弟(妹)が いる

(2-2) 집에 TV가 있다.

家に TV가 ある

この「있다」は、日本語の「いる」「ある」同様、補助動詞⁴としても使われる。補助動詞として使われる「있다」について、小学館の「朝鮮語辞典」(1993)では、次のように説明している。

- 1 《-고 있다の形で》進行中の動作を表わす：…ている，…つつある。
동생이 텔레비전을 보고 있다. 弟 [妹] がテレビを見ている
- 2 《-고 있다または-아 [-어] 있다の形で》動作・作用が完了した後の状態を表わす：
…ている。
집에 혼자 남아 있다. 家に独りで残っている
- 3 《-고 있다の形で》経験を表わす：…ている。
저자는 다음과 같이 말하고 있다. 著者は次のように述べている。
- 4 《-고 있다の形で》反復動作・習慣を表わす。
요즘은 많은 사람들이 교통사고로 죽고 있다. 最近は多くの人々が交通事故で死んでいる

いずれも日本語の「テイル」が対応している。大学等で使われている「初級韓国語」の教科書では、おおざっぱに、「고 있다」は「動作の継続」、「어 있다」は「結果状態」を表すと説明している。

また、一般的に、自動詞は「고 있다」「어 있다」の両方の形を取りうるが、他動詞は「어 있다」の形をとれない。「結果状態」を表す動詞は主に自動詞に限られるということになる。しかし、上記辞書の解説2にあるように、「고 있다」も、「結果状態」を表すことがある。それは、「입다 (着る)」、「들다 (持つ)」のように自分自身に対する動作 (再帰的な動作) を表す他動詞に、「고 있다」が後続した場合で、「입고 있다 (着ている)」、「들고 있다 (持っている)」が、「動作の継続」の意味とともに「結果状態」を表すこともある。

3. 1 「어 있다」と「テアル」「ラレテイル」

日本語の「テアル」は一般に他動詞につくが、韓国語の「어 있다」は基本的に他動詞にはつかない。「印がつけてある」の動詞「つける」は他動詞であるが、対応する自動詞「つく」があるように、韓国語でも、他動詞「붙이다 (つける)」には対応する自動詞「붙다 (つく)」がある。結果状態を表す場合、以下のように表現することができる。

(3-1) 他動詞「つける」+テアル	印がつけてある。
(3-2) 自動詞「つく」+テイル	印がついている。
(3-3) 自動詞「붙다 (つく) +어 있다	표시가 붙어 있다.
(印がついている)

他動詞に対応する自動詞がない場合は、受身形を使うことができる。「印が付けられている」という表現である。「テアル」と「ラレテイル」について、寺村（1984, p.148）で、「その眼前の状態が、なんらかの外部からの力、作用によってもたらされたものであると捉えられた場合は、～ラレテイルか～テアルになる」と言っている。「テアル」の中でも、自然の力や、人間の非意図的な動作による場合には、「ラレテイル」で代用することができる。益岡（1987）では、対象を「ガ」で表すものをA型、「ヲ」で表すものをB型としA型とB1型は、「受身形+テイル」が許容されるとしている（p227及び注8）。

韓国語では受身を被動文と呼び、許明子（2004）によると被動文の概念は「外部からなんらかの影響を受けて、ある動作が行われたことを表すこと」（p.47）にあり、日本語の受身形とほぼ類似している。韓国語の受身形は「어 있다」に接続することができる。受身形も自動詞も目的語をとらず、名詞句をひとつだけとる一項動詞であるといえる。従って、韓国語の「어 있다」は自動詞にしかつかないと説明されるが、韓国語の「어 있다」は一項動詞に接続すると言い換えることができる。

韓国語の受身形の作り方は、語幹に接辞をつける方法と、語幹に「어 지다⁵」をつける方法、「名詞+하다（する）」形なら「名詞+되다（なる）」形にかえるなどの方法がある。語幹に接辞をつける方法は、「쫓다（追う）/ 쫓기다（追われる）」、「물다（噛む）/ 물리다（噛まれる）」などがあるが、150余り⁶と数は少ない。

「印がつけてある」は、「印がつけられている」と言い換えが可能であり、韓国語でも、他動詞「붙이다（つける）」に「어 지다」がついた形受身形「붙여지다（つけられる）」を使って、「표시가 붙여져 있다（印がつけられている）」と表現できる。

3.2 「어 있다」と「テアル」が対応しない場合

他動詞文「印をつける」に「テアル」を接続する場合、対象の表示を「ガ」に替える「印が付けてある」と、対象の表示が「ヲ」のみである「印を付けてある」のふたつが可能である。韓国語の「어 있다」は自動詞か受身形にしか接続しない。自動詞も受身形も、対象を「이（ガ）」で表し、「을（ヲ）」をとることはない。自動詞をつかった「표시가 붙어 있다（印がついている）」、もしくは受身形を使った「표시가 붙여져 있다（印が付けられている）」のいずれかのみが可能で、「을（ヲ）」と「어 있다」が共起することはできない。つまり、「印を付ける」に「テ

アル」を接続する時に、対象を「ガ」に替えられないものは、韓国語に訳することができないということになる。対象を「ガ」に替えられない「テアル」とは、つまり、動作主が「ガ」で標示された「ガーラーテアル」の形である。

- (4-1) 先生 が 印 を 付けてある
 (動作主) ガ (対象) ヲ (他動詞) テアル
- (4-2) 印 が 付けてある
 (対象) ガ (他動詞) テアル

日本語の場合は、対象は「ヲ」のままでも、「ガ」に替えても、他動詞に「テアル」が使える。韓国語の場合、「어 있다」を接続させるには、対象を「ガ」に替えるために、動詞を受身形にしなくてはならない。

- (5-1) 선생님이 표시를 붙인다.
 先生 가 印 을 付ける
 (動作主) ガ (対象) ヲ (他動詞)
- (5-2) 표시가 붙여져 있다.
 印 가 付けられている
 (対象) ガ (受身形) テイル

このように、「어 있다」は自動詞か受身形にしか接続できないので、対象を「이 (ガ)」で表さざるを得ず、そうすると、動作主を表すことができない。対象が「ヲ」の「ラーテアル」でも、動作主がなければ、対象の標示を「ガ」に替えることができるが、動作主が「ガ」で標示されていればそれは出来ない。対象を「ヲ」で表すためには他動詞を使わなくてはならないので、一項動詞にしか接続できない「어 있다」が使えない。南得鉉 (1999) では、対象を「ヲ」で表す「ラーテアル」は、韓国語の「을-어 놓았다 (ラーテオイタ)」に対応すると述べている。益岡 (1997) でも、「テアル」を4つに分類したうちのB2型 (基準時以降における行為の結果の有効性を表す) が、「テオク」に対応するとある。つまり、「ラーテアル」のうち、対象の表示を「ガ」に替えることのできないものは、韓国語の「어 놓았다 (テオイタ)」で表現される可能性がある。

以上から、以下の仮説を立てることができる。

- (6-1) 日本語で対象が「ガ」で表されているものは、韓国語で「受身形+어 있다」で現れる。

(6-2) 日本語で対象が「ヲ」で表されていても、動作主が明示されていなければ韓国語で「受身形+어 있다」で現れる。

(6-3) 日本語で対象が「ヲ」で表わされ、動作主が明示されている場合、韓国語で「어 놓았다」で現れる。

次節から翻訳例をもとに日韓の対応をみながら、この仮説を検証していく。

4. 日本語テアルと韓国語の対応

本稿では、「青空文庫」に収蔵されており、また韓国語翻訳が手に入るという条件で、宮本百合子の「伸子」、「二つの庭」、及び夏目漱石「ぼっちゃん」を資料として使うことにした。使用した韓国語翻訳本は次の通りである。

「노부코」(伸子) 出版社: 어문학사 出版年: 2008年

翻訳者: 한일 여성문학회 (韓日女性文学会) 이상복 / 김화영 / 가미야 미호 (イ・サンボク / キムファヨン / カミヤミホ)

「두개의 정원」(二つの庭) 出版社: 어문학사 出版年: 2008年

翻訳者: 한일 여성문학회 (韓日女性文学会) 이상복 / 어연경 (イ・サンボク / オ・ヨンギョン)

「도련님」(坊ちゃん) 出版社: 문예출판사 (文芸出版社) 出版年: 2006年

翻訳者: 오유리 (オ・ユリ)

この3冊から、検索機能を使って「テアル」が使われている部分を取り出した。「テアル」の用例は全部で119例(「伸子」39例、「二つの庭」60例、「坊ちゃん」20例)を集めることができた。しかし、そのうち25例は、元の日本語とは異なる表現だったり、省略されていたり、アスペクト形式を用いた表現ではなく過去形で表現されていたりしていた⁸。「テアル」が後続していた動詞は62種類あった。

(動詞の後ろの数字は使用回数、数字のないものは1回ずつ)

一般動詞 39種類

置く (25)	書く (15)	入れる (3)	遺す / 残す (2)	知らせる (2)
飾る (2)	揃える (2)	敷く (2)	つける (2)	かける (2)
切る (2)	貼る (2)	出す (2)	とる (2)	しきる (2)
放る	積む	のせる	挟む	乾かす
しまう	乾す	言う	描く	溶く

拒む	据える	めぐらす	つるす	重ねる
考える	こしらえる	決める	消す	かける
認める	挿す	つくる	祭る	

受身形 6種類

揃えられる 埋められる 書かれる 説かれる 描かれる 捨てられる

複合動詞 11種類

閉めきる 刻み付ける 作りつける 取り付ける 放り出す ちりばめる
貼りつける 積み重ねる 敷詰める 張り付ける たてかける

スル動詞 6種類

する (6) 陳列する 引用する 附記する 印刷する 提出する

このうち、対象を「ガ」で標示しているものが51例、「ヲ」で標示しているものが14例あった。また、対象が「ノ」「モ」「ハ」で標示されているものが12例、引用形式の「ト」が用いられているものが11例、その他、「テアル」が連体形になったために対象が明記されていないものや、「テアル」が省略されているものなどが31例だった。

4. 1 日本語で対象が「ガ」で標示され、韓国語でも「이 (ガ)」で標示されているもの

対象が「ガ」で標示されているものは51例と、全体の半数近くであった。そのうち、韓国語訳では「テアル」が省略されてしまっているものと、「テアル」とは別の表現で訳されているもの6例を除くと45例になる。45例のうち34例が、韓国語訳でも対象が「ガ」で標示され、動詞は受身形か自動詞であった。いくつか例を挙げてみる。以下、引用文、韓国語訳の下線、及び韓国語の日本語訳は筆者による（日本語訳は韓国語との対応を明らかにするため直訳したので、若干不自然な日本語になっている部分もある）。

(7-1) その暖炉の左右は、佐々ごのみで、イギリス流の長椅子になっている。その上に、どてらが袖だたみのままおいてあった。(二つの庭)

(7-2) 그 난로의 좌우에는 샷사의 취미로, 영국식의 긴 의자가 놓여 있었다. 그 위에 도테라가 소데다타미로 개어진 채 놓여 있었다.

(その暖炉の左右には、佐々の趣味で、英国式の長い椅子が置かれていた。その上にドテラがソデダタミに畳まれたまま、置かれていた。)

小説には「どこに何がある」という場面描写が多く、その中で「置く(他動詞)+テアル」の「置いてある」という表現が多く出てくる。韓国語では上の例のように「놓다(置く)」に接辞がついて受身形になった「놓이다(置かれる)」を用いて、「놓이다+어 있다」の形に訳されることが多い。

- (8-1) 佃のところから来たハガキが、そばに散っていた。今朝のは、奈良からであった。眼ばかり大きい大きい鹿と、鳥居が描いてあった。(伸子)
- (8-2) 쓰쿠다에게 온 엽서가 옆에 떨어져 있었다. 오늘 아침 온 편지는 나라에서 온 것이었다. 눈만 커다란 사슴과 도리이가 그려져 있었다.
(佃から来たハガキが、横に落ちていた。今朝来た手紙は、奈良から来たものだった。目だけが大きい鹿と鳥居が描かれていた)

日本語は「描く(他動詞)+テアル」で、韓国語は「그리다(描く)」に「어 지다」を接続させ受身形にして、「그려지다(描かれる)+어 있다」が使われている。

- (9-1) うしろの本箱の上の鴨居に細長く紙がはってあって、それが、日課の進行表になっていた。(二つの庭)
- (9-2) 뒤쪽의 책상 위의 장지에 가늘고 길게 진행표 종이가 붙어 있었다. 일과의 진행표였다.
(後ろの机の上の障子に細長い進行表の紙が付いていた。日課の進行表だった。)

日本語で使われている他動詞「貼る」に対応する韓国語は、「붙이다(つける)」がある。これには対応する自動詞「붙다(つく)」があるので、ここでは、「붙다(つく)+어 있다(ついている)」が「はってある」の訳になっている。

最後に、「名詞+スル」が「名詞+シテアル」の形で表れているものが11例あった。韓国語訳では「する(하다)/なる(되다)」の対応が見られる。

- (10-1) 메디치의紋が象嵌してある엑스・레그스의椅子などが置かれている。
- (10-2) 메디치 무늬가 상감되어 있는 X자로 된 의자 등이 놓여 있었다.
(메디치模様が象嵌されている X字になった椅子などが置かれていた。)

「상감하다(象嵌する)」の他動詞に対して、自動詞「象嵌される(상감되다)」に「어 있다」を接続している。「名詞+する(하다)」に「名詞+なる(되다)」が対応しているものが4例

見られた。

4.2 日本語で対象が「ヲ」で標示され、韓国語では「이 (ガ)」で標示されているもの

対象が「ヲ」で標示されているものは14例と少なかった。このうち、韓国語訳では対象が「ガ」で標示されていたものが5例、「ヲ」で標示されていたものが4例、それ以外のものが5例だった。それ以外の5例は、使われている動詞が自動詞のものが2例で、他動詞のものが3例であった。ここでは、「ヲ」で標示されている対象が、韓国語訳では「ガ」で示されているものをみしてみる。動作主が明らかでない場合、対象を「ガ」で示して、「受身形+어 있다」の形が可能だと予測できる。

(11-1) 伸子は珍しく思って、金を打った観音開きの扉や内部の欄間に親鸞上人の一代記を赤や水色に彩いろどりした浮彫で刻みつけてあるのを眺めた。(伸子)

(11-2) 노부코는 신기하게 여기며, 금을 바른 관음 여닫이문과 내부의 난간에 신란 큰스님의 일대기가 빨간색이나 파랑색으로 채색되어 또렷이 새겨져 있는 것을 바라보았다.

(伸子は不思議に思って、金を張った観音開きの扉や内部の欄干に親鸞上人の一代記が赤や青で彩色され鮮やかに刻まれているのを眺めた。)

文脈から仏壇の製作者が一代記を刻み付けたことはわかるが、動作主として明示されていない。韓国語訳では対象がガで示されている。動詞は、「새기다 (刻む)」に「어 지다」を接続させた受身形「새겨지다 (刻まれる)」が使われている。

(12-1) 大きな盆に、絵筆や筆洗絵具皿などをのせてある。(伸子)

(12-2) 커다란 쟁반 위에 그림 붓, 붓을 씻는 그릇, 그림 물감을 푸는 접시 등이 놓여 있었다.

(大きな盆の上に、絵の筆、筆を洗う椀、絵の具を溶く皿などが置かれていた。)

この文の前後を見ても誰の行為かは明らかではなく、動作主は明示されていない。韓国語訳では対象がガ格に置き換えられている。使われている動詞を見ると、日本語の「のせる」は、「놓다 (置く)」の受身形「놓이다 (置かれる)」になっている。「のせる」が「置く」に置き換えられているが、大きく意味が変わっているとは思われない。「皿をのせる」「皿を置く」という行為より、「そこに皿がある」という存在表現であるといえる。

日本語で対象が「ヲ」であっても動作主が明らかでない場合は、対象を「ガ」で示すことが

できるので、韓国語訳では「受身形+어 있다」の形で表現されるという仮説が裏付けられたといえよう。

4. 3 日本語で対象が「ヲ」で標示され、韓国語で「어 있다」が使われていないもの

南得鉉(1999)では、対象を「ヲ」で表す「ヲーテアル」が、韓国語の「을-어 놓았다(ヲーテオイタ)」に対応すると述べている。益岡(1997)でも、「テアル」を4つに分類したうちのB2型(基準時以降における行為の結果の有効性を表す)が、「テオク」に対応するとあり、有効性を発揮する状況を作り出す行為の面に焦点を置いて表現したものが「テオク」であると述べている。山崎(1996)では、「テアル」と「テオク」は、先行動作とその結果の状態をとらえるという点で共通しており、相違点は「テアル」が結果に焦点があり、「テオク」は先行する意図的な行為に焦点があると指摘している。スル形の「テオク」は、発話時以後に行われる行為を表すので、「テアル」に対応するのは「テオイタ」になるだろう。

韓国語には「置く」という意味をもつ動詞として、主に「두다」と「놓다」の二つがある。これらの動詞を補助動詞に用いた「テオク」は「어 두다」、「어 놓다」であり、その過去形の「テオイタ」は、「어 두었다」、「어 놓았다」となる。南得鉉(1999)では、「어 놓았다」は「ヲーテアル」に対応し、「어 두었다」が用いられているものも、「어 놓았다」に置き換え可能だとしている。

意図的な行為の結果を表す「ヲーテアル」は、その意図を持つ行為者が存在するはずなので、対象を「ヲ」で表す「ヲーテアル」は、韓国語では「을-어 두었다」か「을-어 놓았다」に訳されていると予想される。

4. 3. 1 「ヲーテアル」が「을-어 두었다」「을-어 놓았다」に訳されているもの

(13-1) 「もしかしたらあとから送ってほしい本を入れてあるの。たのむわね」(二つの庭)

(13-2) “나중에 혹시 필요할지도 모르는 책들을 넣어두었거든. 부탁할게.”

(後でもしや必要かもしれない本を入れておいたの。頼むわね)

(14-1) 素子は、台紙にはらないスナップ写真を入れてあるカステラの古箱を床の間の地袋からもち出して、なかみを机の上にひっくりかえしはじめた。(二つの庭)

(14-2) 모토코는 앨범에 붙이지 않은 스냅사진을 넣어두는 카스텔라 상자를 마루 밑에서 꺼내 안에 든 것을 책상 위에 쏟았다.

(素子は、アルバムに貼らなかったスナップ写真を入れておくカステラの箱を板の間の下から取り出し、中に入ったものを机の上にぶちまけた。)

(13-2) と (14-2) は、いずれも他動詞「넣다 (入れる)」に「어 두었다」が接続したものである。

(13-1) は、東京を離れる伸子が、荷物を片付けている場面で、本を入れた箱を弟に預ける場面である。「本を入れておいた」という作業をしたのは、当然、発話者である伸子である。(14-1) の文の主語は「素子」であるが、述語は「ひっくりかえしはじめた」であり、「写真を入れた」動作の動作主であるとまで言えるかどうか確実ではないが、「写真を入れた」動作主が明示されていないので、この動作主は「素子」だと考えるのが自然だろう。対象が「ヲ」で表示され、動作主が含意されるので、韓国語訳では「을-어 두었다 (ヲ-テオイタ)」が使われているといえる。

(15-1) 伸子は糊刷毛を手に持ったまま耳を澄した。「——御免なさい」伸子は、その声を聞くと、糊をといてある丸盆を飛び越えて玄関へ出た。(伸子)

(15-2) 노부코는 풀 솔을 손에 든 채 귀를 기울였다 “계세요?” 노부코는 그 소리를 듣자 풀을 풀어 놓았던 둥근 통을 뛰어 넘어 현관으로 나갔다.

(伸子は糊刷毛を手に持ったまま耳を傾けた。「いらっしゃいますか？」伸子はその声を聞くと、糊を溶いておいた丸い盆を飛び越えて玄関へ出て行った。)

(15-2) は、伸子が地震でおちた壁に紙を貼っている場面であり、「풀다 (溶く)」という他動詞が使われている。「糊をといてある丸盆」という部分に、糊を溶いている動作主は明示されていないが、前後の文脈から、丸盆に糊を溶いているのは伸子と思われる。対象「糊」が「ヲ」で示され、動作主が明らかなので、日本語の「テアル」が、韓国語の「テオク」になっているのは、(13-2)、(14-2)と同じだが、ここでは「어 놓았다」が使われている。南得鉉(1999)は、「어 놓았다」は「ヲ-テアル」に対応し、「어 두었다」が用いられているものも、「어 놓았다」に置き換え可能だとしているが、「어 놓았다」と「어 두었다」の使い分けについて、次節で詳しく見る。

4. 3. 2 「어 두었다」と「어 놓았다」の使い分け

「어 두었다」と「어 놓았다」は、「어 두다」と「어 놓다」の過去形だが、本動詞としての「두다」と「놓다」のそれぞれの意味を確認しておく。小学館『朝鮮語辞典』によると、「두다」は、「1 (一定の場所に)置く、しまう。2 (一定の時間を)置く、及ぶ、わたる。」とあり、「놓다」は、「1 (物のある位置に)置く。2 (持っている、握っている物を)放す、(手を)放す。」とある。また、この辞書には、「놓다」と「두다」の違いについて、以下のような補足説明がついている (p550)。

◇두다

「一定期間存在する、保存する」あるいは「意識して置く」場合に用いる。何かの上に置く場合だけではなく、ぶらさげたりするときにも用いる。また、手以外の動作でも用いることができる。

◇놓다

主として手を用いて置く（放す）動作に用いる。「置いておく」場合には놓아두다を用いる。

これらの動詞を補助動詞として用いたのが「-テオク」の意味をもつ「어 두다」と「어 놓다」だが、両者の使い分けについて、南得鉉（1999）では、「어 놓았다」は、意図性が弱く、単なる「処置」の意味をもち、「어 두었다」は、強い目的意識を持って、意図的にある行動を行った結果状態という意味をもつと分析している。

一方、油谷（1979）では、日本語の「テオク」を、A型（ある時までにある対象に変化を与える）、B型（ある時までの一定の状態を持続させること）に分類した。A型は「어 놓다」と、B型は「어 두다」とより結合しやすい傾向にあるという仮説を立てている。具体的に、以下のような例を挙げている。

A型で「어 놓다」が用いられるもの

치우다（片付ける）、심다（植える）、고치다（直す）、만들다（作る）、파다（掘る）
など

B型で「어 두다」が用いられるもの

감추다（隠す）、맡다（引き受ける）、가지다（持つ）、넣다（入れる）、닫다（閉める）
など

実際にはこのようにきれいに使い分けられているわけではなく、それに先行する動詞の内在的資質に左右されるものもあり、받다（受け取る）や쓰다（書く）のように、同じ動詞に対してそれぞれ「어 놓다」と「어 두다」が使用されるものもある。

（13-2）と（14-2）で使われている動詞は、넣다（入れる）で、油谷（1979）で、「어 두다」に結合しやすい動詞に分類されている。（15-1）の「糊を溶いてある丸盆」は、「溶いておいた」とB型の意味に解釈され「어 두다」に結合すると思われるが、（15-2）では、「어 놓다」と結合している。これは先行する動詞풀다（溶く）の内在的資質に左右されたためだと思われる。

4. 3. 3 「ヲ-テアル」が「어 두었다」と「어 놓았다」以外に訳されているもの

つぎの(16-1)「自分の心持は」と(17-1)「それは」は、いずれも無題化すれば「私の心を」、「それを」と対象は「ヲ」で示され得るが、「어 두었다」や「어 놓았다」が使われていない。

- (16-1) 「云ってお上げになりましたか？ そのこと」
 「すぐ書きました、詳しく。——それに、ずっと前から、自分の心持は知らせてありますから……」(伸子)
- (16-2) 「말씀드렸습니까? 그일을」
 「바로 편지로 적었습니다. 그리고 전부터 꼭 제 마음을 알려 왔어요.」
 («おっしゃいましたか?そのことを」「すぐ手紙で書きました。そして前からずっと私の心を知らせてきました」)
- (17-1) 「私にはわかりません——それは、初めっから幾度も云ってある通り、君は自由です。あくまで自由なんだから、どうでも、好きになすたらいいでしょう」(伸子)
- (17-2) “나는 모르겠어요. 처음부터 몇 번이나 말해 왔던 대로 당신은 자유예요. 어디까지나 자유니까 편한 데로 하면 되잖아요.”
 (私は分かりません。初めから何回も言ってきた通り、君は自由です。どこまでも自由だから、楽なようにすればよいじゃないですか)

(16-2)では「알리다(知らせる)」、(17-2)では「말하다(言う)」という他動詞が使われており、それぞれ「어 오다 (テクル)」が後接している。(16-1)は伸子の、(17-1)は佃の発話なので、「知らせてある」、「言っている」の動作主は発話者である。また、いずれも他動詞なので、(16-2)では対象である「제 마음 (私の心)」は「을 (ヲ)」で示されている(但し、(17-2)では、対象が示されていない)。以上の条件から、他動詞に「テオク」の「어 놓다」か「어 두다」が接続する形が予想されるが、(16-1)では「前からずっと(전부터 꼭)」、(17-1)では「何回も(몇 번이나)」という過去から現在までの時間の幅を表す副詞があるため、「어 오다 (テクル)」が使われていると解釈できる。

4. 4 日本語で対象が「ガ」で標示され、韓国語で「을」で標示されているもの

日本語では対象が「ガ」で標示されているもの51例のうち、韓国語で対象が「ヲ」で標示されていたものは4例あった。

(18-1) ところがこっちから返報をする時分に尋常の手段で行くと、向うから逆振を食わして来る。貴様がわるいからだと云うと、初手から逃路が作ってある事だから滔々と弁じ立てる。(坊ちゃん)

(18-2) 하지만 내가 복수를 하려고 평소 내 성질대로 했다가 놈들에게 역습을 당하기 십상이다. “네놈들이 잘못해서 그러는 것이다” 라고 말을 해도 어차피 처음부터 도망갈 구멍을 파놓고 있기 때문에 마침내는 오히려 더 큰 소리를 치게 될 것이다.

(しかし、私が復讐しようといつもの私がやる通りにすると、奴らの逆襲に遭うのだ。いずれにしろ最初から逃げる穴を掘っておいているので、最後はむしろ大声を上げるようになるのだ)

(18-1) では「逃路が作ってある」が、(18-2) では「穴を掘っておいている」になっている。他動詞「파다 (掘る)」に、「어 놓다 (テオク)」を後続させた形が使われている。ここでは、「逃路を作る」のは、「向う」と表現されている「学生」であるのが明らかで、「(学生が)逃路をつくって、滔々と弁じたてる」と言い換えられる。動作主が明らかなので、対象を「을 (ヲ)」で示し、他動詞がそのまま使用できると考えられる。

4. 3. 2 で見たように、韓国語の「テオク」は、「어 놓다」と「어 두다」の2種類があるが、油谷 (1979) で、파다 (掘る) は、「어 놓다」に結合しやすいA型 (ある時までにある対象に変化を与える) に分類され、ここでも「어 놓다」に結合している。

(19-1) 浄土真宗が非常に盛で、村の寺は倶楽部または集会所であった。家々には素晴らしい仏壇が飾ってあった。(伸子)

(19-2) 정토진종이 상당히 번성하여 마을의 절은 클럽이나 집회소같았다. 집집마다 훌륭한 불단을 꾸러놓고 있었다.

(浄土真宗がとても盛んで、村の寺はクラブや集会所のようだった。家々に立派な仏壇を飾っておいていた)

(19-1) を見ると、「仏壇が飾ってあった」は「(家々には) 仏壇があった」と言い換えても差し障りがないほど、存在表現に近いし、ここで使われている他動詞「꾸러다 (飾る)」を受身形「꾸러지다 (飾られる)」にして使えば、韓国語でも「가」のまま「불단이 꾸러져 있었다 (仏壇が飾られていた)」という表現が可能であるにもかかわらず、(19-2) では、わざわざ対象をヲで示し、「어 놓다 (テオク)」の形をとっている。

あえて対象の標識を「ヲ」に交替させているので、他動詞の動作主が明示されているのかと

言えば、文脈から仏壇を飾っているのは「家々」の住人だと推測できる程度である。ただ、このあと「その大小が家の格を支配するということであった。」と続くので、「(家の人が) 立派な仏壇を飾って家の格を上げる」という意図を強調するために、他動詞のまま「어 놓다 (テオク)」の形を選んだのかもしれない。

(20-1) 伸子は、一緒に和一郎の仕事部屋へ行ってみた。洗濯場の奥を区切り、薬品を
 沢山並べた小窓のところに、印画が乾かしてあった。(伸子)

(20-2) 노부코는 함께 가즈이치로의 작업 방으로 들어가 보았다. 세탁실의 안쪽 끝
 에 약품이 많이 나열되어 있는 작은 창가에 인화지를 말리고 있었다.
 (伸子は一緒に和一郎の作業部屋へ入ってみた。洗濯室の内側の奥に、薬品がた
 くさん並べられている小さな窓辺に、印画紙を乾かしていた。)

ここでも、(20-1) の「印画が乾かしてあった」は「(小窓のところに) 印画があった」と
 言い換えが可能なので、(20-2) も、対象をガで示し、他動詞「말리다 (乾かす)」の自動詞「마
 르다 (乾く)」や、受身形「말려지다 (乾かされる)」を使って、「인화지가 말라 있다 (印画
 紙が乾いている)」、「인화지가 말려져 있다 (印画紙が乾かされている)」という表現が文法的
 には可能である。しかし、(20-2) では、対象の標識を「을 (ヲ)」に替え、他動詞「말리다 (乾
 かす)」に動作の継続を表す「고 있다 (テイル)」を後続させて、「(和一郎が) 印画紙を乾か
 している」という動作の進行表現になっている。

(20-1) で分かるように、「印画紙を乾かす」動作をしているのは、和一郎であり、この文
 の直前に、和一郎は、「丁度乾かしたところよ、もういいだろう」(「마침 말리고 있는 참이었
 어. 다 됐을 거야」)と言っている。この場面が継続しているという前提から、対象の標識を
 「ガ」から「ヲ」に替え、他動詞をそのまま使ったと考えられる。

4.5 「テアル」が引用の「ト」とともに用いられているもの

「テアル」では、対象がすべて「ガ」と「ヲ」で表示されているわけではなく、今回の119例
 の中では、「ガ」、「ヲ」のほかに、引用形式の「ト」と共に「テアル」が用いられているもの
 が11例と多い。引用を表す「ト」が用いられている例について、対象の表示と動作主の明示に
 ついて考察してみる。

まず、引用の「ト」が用いられている例文に使われている動詞は、ほとんどが他動詞「書く」
 である。引用の「ト」は韓国語では「라고⁹」が使われる。

(21-1) そしたら、あるとき、「これを井田におやり」と伸子にわたした祝儀袋の上に江

田殿と書いてあるのを発見した。(二つの庭)

(21-2) 그런데 어느날 노부코에게 준 축의금 봉투 위에 에다 귀하라고 쓰여 있는 것을 발견했다. “이것을 이다에게 주렴.”

(ところである時、伸子に渡した祝儀金袋の上に、江田貴下と書かれているのを発見した。「これを井田におやり」)

(22-1) 天麩羅を食うと減らず口が利きたくなるものなりと書いてある。(坊ちゃん)

(22-2) “튀김국수를 먹으면 억지를 부리고 싶어진당께” 라고 쓰여 있었다.

(“天ぷらそばを食べると意地を張りたくなるのだ” と書かれていた)

(21-2) でも (22-2) でも、他動詞「쓰다 (書く)」の受身形「쓰이다 (書かれる)」に「어 있다」が後続している。寺村 (1984) に、「このような「～ニ…ト書イテアル」は「ト書カレテイル」とほぼ同じ意味といってよさそうである。短く「…トアル」というのと変わらない」(p151) とあるように、基本的には4. 1 で見た「受身形+어 있다」に置き換えられる「テアル」と同じ構造といえる。(21-1) の「江田殿」や、(22-1) の「～ものなり」を「ガ」で表すことはできないが、いずれも動作主を「ガ」で表すことはできない。

(23-1) *학생가減らず口が聞きたくなるものなりと書いてある。

(23-2) *학생이 “억지를 부리고 싶어진당께” 라고 쓰여 있었다

(학생가 “意地を張りたくなるのだ” と書かれていた)

「書く」に「テアル」が後続した形には、対象を「ガ」で標示した例文はあるが、「ヲ」で標示した例文はなかった。寺村 (1984) でも指摘されているように、「書いてある」の「ある」に意味の中心があるので、対象を表すとしたら「ガ」を用いらざるを得ないということだろう。実際に、対象を「ガ」で表した例文もいくつかある。

(24-1) それには素子に対し傾倒した自分の感情などが細かく書いてあるのだった。(伸子)

(24-2) 거기에는 모토코에게 심취된 자신의 감정등이 자세하게 쓰여 있었다.

(そこには素子に心酔した自分の感情などが細かく書かれていた)

(25-1) おれの顔くらいな大きさな字が二十八字かいてある。

(25-2) 내 얼굴만큼이나 커다랗게 스물여덟 글자가 쓰여 있었다.

(私の顔くらい大きく二十八文字が書かれていた)

また、引用の「ト」とともによく用いられる動詞「書く」の韓国語「쓰다」は他動詞であり、本来、「어 있다」は他動詞には後接しないはずだが、他動詞「쓰다」がそのまま使われているものがある。

(26-1) 翌日何の気もなく教場へはいると、黑板一杯ぐらいな大きな字で、天麩羅先生
とかいてある。(坊ちゃん)

(26-2) 다음 날 아무 생각없이 교실에 들어가자 칠판 한가득 “튀김 선생” 이라고
써 있었다.
(翌日なんの気もなく教室に入ると、黑板いっぱい“天ぷら先生”と書いてあつ
た)

(27-1) 一つ天麩羅四杯なり。但し笑うべからず。と黑板にかいてある。(坊ちゃん)

(27-2) “여봐, 여기 튀김국수 네 그릇, 단 웃어서는 안 됨” 이라고 써 있는것이 아
닌가.
(“ほら、ここに天ぷらそば4杯、但し笑うべからず”と書いてあるではないか)

小学館の「朝鮮語辞典」(1993)の「쓰다」の項に、「補足」として、「쓰고 있다は進行を表わし、
써 있다は「書いてある」という状態を表わす」と説明がされているが、他動詞であること
についての言及はない。趙義成(1999)に、次のような説明がある。

また、他動詞には「Ⅲ 있다」がないといったが、1語だけ「Ⅲ 있다」形が存在する他動詞
がある。それは「쓰다 스타」(書く)である。この「Ⅲ 있다」形である「써 있다 소 이ッタ」
は「書いてある」という意味になる。(要訣・朝鮮語「I-고 있다 と Ⅲ 있다」)

「어 있다」は他動詞には後接しないが、「쓰다(書く)」のみが例外だと述べている。119例
文という限定的な中でみても、他動詞に「어 있다」が後接した例は、「쓰다」が使われている
この2例だけである。つまり、「쓰다」に関しては、以下の表現が可能だといえる。

(28-1) 글을 쓰고 있다. (他動詞+テイル) 文を書いている

(28-2) 글이 쓰여 있다. (受身形+テイル) 文が書かれている

(28-3) 글이 써 있다. (他動詞+テアル) 文が書いてある

(28-2) と (28-3) の使い分けが可能ではあるが、日本語で「書いてある」という表現が15例あった中で、「써 있다」は2例、他13例は「쓰여 있다」だった。「써 있다」が2例と少ないため、「써 있다」と「쓰여 있다」の使い分けに関しては、特に条件を見つけることはできなかった。

5. おわりに

これまでの「テアル」や「テオク」の研究を見ると、意味による分析がほとんどであり、動詞の意味的な分類なども含め、非常に複雑なものであった。本稿は、韓国語に直訳できない「テアル」と韓国語の対応を、対象を表す格と動作主の存在に注目して分析を行った。3. で立てた仮説を振り返ってみる。

- (6-1) 日本語で対象が「ガ」で表されているものは、韓国語で「受身形+어 있다」で現れる。
- (6-2) 日本語で対象が「ヲ」で表されていても、動作主が明示されていなければ韓国語で「受身形+어 있다」で現れる。
- (6-3) 日本語で対象が「ヲ」で示され、動作主が明示されている場合、韓国語で「어 놓았다」で現れる。

まず、(6-1) の対象が「ガ」で標示されているものは、日本語に使われている他動詞に、韓国語で対応する自動詞がある場合はその自動詞に「어 있다」を接続させるが (9-2)、対応する自動詞がない場合は、同じ一項動詞である受身形に「어 있다」を接続させていた (7-2、8-2、10-2)。

(6-2) に関しては、対象の標識を「이 (ガ)」にかえて「受身形+어 있다 (ラレテイル)」に訳されていることが確認できた。「テアル」は、小説などの場面描写に使われていることが多く、「<モノ>がある」または「<状態>がある」という広い意味での存在表現だといえる。つまり、「テアル」の「アル」、「어 있다」の「있다」の意味が中心になるため、対象は「ガ」で表すのが自然であると考えられる。

(6-3) の対象の標識が「ヲ」で、動作主が明らかである場合、韓国語でも対象の標識は「을 (ヲ)」のまま、「他動詞+어 두다/놓다 (テオク)」で訳されていた。また、対象の標識が「ガ」でも文脈から明らかに動作主が存在する場合、対象の標識を「ガ」から「을 (ヲ)」に変えて、「他動詞+어 두다/놓다 (テオク)」が使われているものもあった。「何回も」や「以前から」などの時間の幅を表す副詞があると、「어 오다 (テクル)」が使われることもある。

最後に動作の対象ではないが、引用を表す「ト」が用いられる場合、動作主を明示することができないので、「受身形+어 있다 (ラレテイル)」に訳されることがほとんどである。引用を表す場合、「쓰다 (書く)」が用いられることが多いが、「쓰다 (書く)」は唯一、「어 있다」を接続できる他動詞であり、「써 있다 (書いてある)」と「쓰여 있다 (書かれている)」のふたつの表現が可能である。本稿では集めた例文の数が十分でなかったため、「써 있다」と「쓰여 있다」の使い分けに関しては、特に条件を見つけることはできなかった。

「テアル」は、既存の韓国語テキストでは踏み込んだ説明がされていないので、本稿で明らかになった「テアル」と、韓国語の対応関係から、韓国語を教授する際の参考として以下のようまとめられる。

- (29-1) 日本語で対象が「ガ」で表されていれば、日本語文に使われている他動詞に対応する韓国語を受身形にして「어 있다」を接続する。
- (29-2) 日本語で対象が「ヲ」で表されていても、動作主が明示されていなければ、対象を「이 (ガ)」に交替したうえで、日本語文に使われている他動詞に対応する韓国語を受身形にして「어 있다」を接続する。
- (29-3) 日本語で対象が「ヲ」で示され、動作主が明示されている場合、日本語文に使われている他動詞に対応する韓国語の他動詞に「어 놓았다」か「어 두었다」を接続する。

これまでの先行研究では意味による分析が多かったが、本稿では助詞や動作主に注目することで、教授する側、学ぶ側のいずれにもより理解しやすくなったと思われる。また、韓国語を日本語にする場合、「受身形+어 있다」をそのまま直訳した「～ラレテイル」より「～テアル」が使えればより自然な日本語になるだろう。

今回は、119例の「テアル」を集めて分析を行ったが、特に「ヲーテアル」が14例と数が少ないので、今後、さらに例文を増やして考察する必要がある。また、日本語の小説とその韓国語訳を資料に使ったが、韓国語の「受身形+어 있다 (ラレテイル)」や「他動詞+어 두다/놓다 (テオク)」が、日本語にどう訳されているか、逆方向の対応例を集めることで、「テアル」と韓国語との対応をさらに確認していきたい。

注

- 1 母音調和により、「아」、「어」、「여」のいずれかを選択するが、本稿ではこれらを代表して「어」を使い「어 있다」のように表記する。
- 2 「Ⅲ 있다」のⅢは、語基説に基づく表記で、「語幹+아/어/여」を「第Ⅲ語基」とする。したがって、「Ⅲ 있다」は「어 있다」に置き換えることができる。
- 3 日本語の助詞「ガ」に対応する韓国語の助詞は「가/이」である。母音で終わる名詞には「가」が、子音で終わる名詞には「이」が後続するが、本稿ではこれらを代表して「이」で表示する。
- 4 「있다」は、『国立国語院標準国語大辞典』では動詞・形容詞の両方の品詞で掲載されており、本動詞に後続する場合は補助動詞となるが、『朝鮮語辞典』（小学館）では、「있다」は存在詞に属し、本動詞に後続する場合は補助存在詞となる。本稿では補助動詞の名称を用いる。
- 5 「어 지다」の「어」は、母音調和により、「아」、「어」、「여」のいずれかを選択するが、本稿ではこれらを代表して「어」を使い「어 지다」のように表記する。
- 6 許明子（2004）pp74-75参照。
- 7 日本語の助詞「ヲ」に対応する韓国語の助詞は「를/을」である。母音で終わる名詞には「를」が、子音で終わる名詞には「을」が後続するが、本稿ではこれらを代表して「을」で表示する。
- 8 日本語と異なる表現になっていたものの例
「十五日も前に、英文学と社会学を聴講する届をしたきり父の病気で放ってあった。」（伸子）
「영문학과 사회학 청강 신청을 한 후 아버지의 병으로 15일이나 가지 못했다.」
（英文学と社会学の聴講申請をした後、父の病気で15日も行けなかった）
アスペクト形式ではなく過去形で表現されていたものの例
「その室の角に置いてある洋風の大テーブルから、」（二つの庭）
「이 방의 모퉁이에 놓인 서양식의 큰 테이블에서」
（この部屋の隅に置かれた西洋式の大きなテーブルから）
- 9 母音で終わる名詞には「라고」が、子音で終わる名詞には「이라고」が後続する。

参考文献

- 李修京 (2012). 『Korea、おもしろい韓国語 (中級)』朝日出版社
- 齋藤茂 (2008). 「テアル構文と対象の格表示」『言語と文明』第6巻 麗澤大学大学院言語教育研究科 p.113-136
- 趙義成 (1999). 「要訣・朝鮮語 I-고 있다とIII 있다」『趙義成の朝鮮語研究室』
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/kouza/yoketu/goissda.html> (2014年8月30日アクセス)
- 『朝鮮語辞典』(1993). 小学館
- 寺村秀夫 (1984). 『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
- 中西恭子 (2010). 『表現のための中級韓国語』白水社
- 南得鉉 (1999). 「日韓両言語における結果状態の対照研究 (1) —「~ヨーテアル」「~ヨーテオイタ」と「~을-어 놓았다」「~을-어 두었다」の対応を中心に—」『教育学研究紀要』第45巻第2部 中国四国教育学会 pp.449-454
- (2001). 「日韓両言語における結果状態の対照研究 (2) —「~ガーテイル」「~ガーテアル」「~ガラレテイル」と「~이-어 있다」「~이-어져 있다」の対応を中心に—」『教育学研究紀要』第47巻第2部 中国四国教育学会 pp.313-318
- 野間・金 (2004). 『Viva! 中級韓国語』朝日出版社
- 許明子 (2004). 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房
- 益岡隆志 (1987). 『命題の文法』くろしお出版
- (1997). 『複文』くろしお出版
- 山崎恵 (1996). 「「~ておく」と「~てある」の関連性について」『日本語教育』88号 日本語教育学会 pp.13-24
- 油谷幸利 (1979). 「「-어 놓다」と「-어 두다」の意味分析」『朝鮮学報』91 朝鮮学会 pp.1-14